

酒々井町

郷土研究会会報

第110号

平成15年10月1日
酒々井町郷土研究会
広報部

雀百まで踊り忘れぬ

岩館和夫

いま、人に趣味は何かと問われたらそれは山野跋涉と答えることでしょう。私はこの世に生を受けて七十八年この酒々井の地で暮らして参りました。その中で今でも強く思い出

在の二九六号線も下台の麻賀多神社から法華塚を通って七曲がりまで家はなく、砂埃の舞う道路の両側は鬱蒼と草木が生い繁り昼でも薄暗く人通りはほとんどなく緑にむせぶような静かな田舎でした。

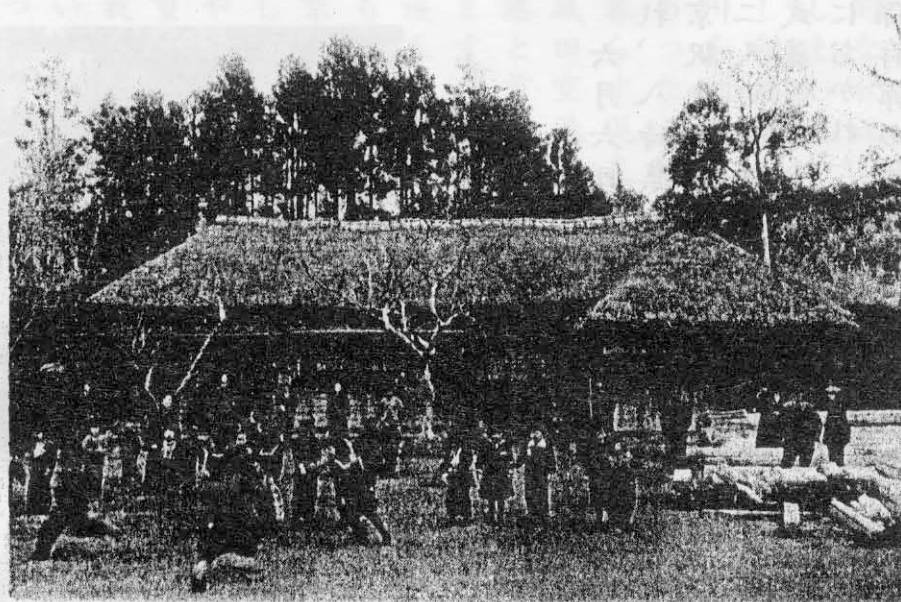
として心に残っているのが遊び盛りを過ごした墨分教場での十四年間の生活です。父親が大正五年四月から昭和十四年三月まで、墨分教場に住み込んで教師をしていた関係で、こ

当時はまだ一部の地区には電灯がなくランプの生活をしていた家もありました。あの頃の電灯は夕方になると点灯され、朝になると消えてしまい、遊びに出掛ける時はいつも母親に「電気がつくまでには帰って来るといいます。」と注意されたことを覚えています。

こは私の住居地だったので。今ではもう廃校になってしまいましたが、墨の一番はづれにあつて、前は一面に田圃が広がり、夏は夜ともなると螢が飛び交い、裏は遙かに山が続いて停車場までは一軒の家もなく、季節が来れば緑の山のいたるところに山百合の花が咲き、また現

そんな環境の中での遊びは必然的に自然相手が多く、毎日のように野山を走り回って成長しました。春になればワラビ採り、秋になればキノコ採りと山に入れば自然は四季折々にさまざまな恵みを与えてくれ、楽しみの絶えることはありませんでした。

カマエビ、野イチゴ、アケビ、山栗など数えればきりがなく、なかでも山の中でたまに巡り合ったのがオバチコ。だれがこんな名をつけたのかは知りませんが、松の幹にできた「コブ」にアメ色をした樹液が出ていて、それをなめると蜜のようにかつた。私なりにその名を考えてみ



○改築前の旧校舎(起工式の日)昭28.3.14

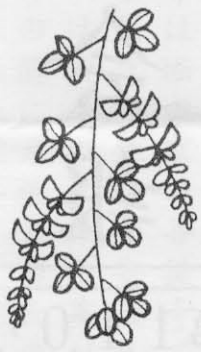
るに、昔の人はおそらく山姥の乳、ウバチッコと呼んでいたのではないかと思えます。それが長い歳月の経過とともにいつしか変化してオバチッコになってしまった。私の子供の頃、墨あたりでは乳を「チッコ」と呼んでいたように記憶してます。でも面白いことにこれは女松にはなく、男松にしかありませんでした。今では松食虫の被害で山の松はみんな枯れ再び出会うことなく松の木と運命を共にしたオバチッコ、今では知る人も少なくなつてしまったことでしょう。

戦後は生活様式の変化から薪など不要になつてしまったため山の手入れは行われず、荒れ放題となつてしまいました。時々子供の頃よく通つた山の小道を思い出して行つてみると、もうそこには道がなく幼き日の思い出だけが空しく野山をかけめぐり実に淋しい思いで帰つてくること、がしばしばあります。いつ行つて見ても昔と今と変わりのないのは高崎川の流れだけ。よくこの川では、魚釣りや川遊びをしました。魚は主に鮒やタナゴで、板を渡しただけの高野台橋の上流ではゲバチがよく釣れましたが、これがなかなかの厄介者で背鰭を持つとギューギューと鳴き、

胸鰭で刺されると非常に痛く釣れても迷惑な魚でした。今ではもう見ることがなくその姿を消してしまいました。

四季それぞれに工夫を凝らして毎日楽しく遊び戯れた幼なじみも今では、一人二人と流れ星のごとく遠くへ飛んで行つてしまい、大正も遠くなくなってきたことを痛感します。せめてこれからも命ある限り、むかしの遊びなれた野山を歩き回つて、今では数少なくなつたジジババや白い可憐な花を咲かせるトウヤクでも見つけて歩こうかと思つている今日この頃です。

(墨分校は、明治六年墨小学校として墨村東伝院を仮校舎として開校、明治十八年尾上校を合併し墨村小盛田に移転しました。その後昭和四十九年四月酒々井小学校に統合されるまで一〇一年間墨、尾上、飯積区の子弟教育の中心でした。)



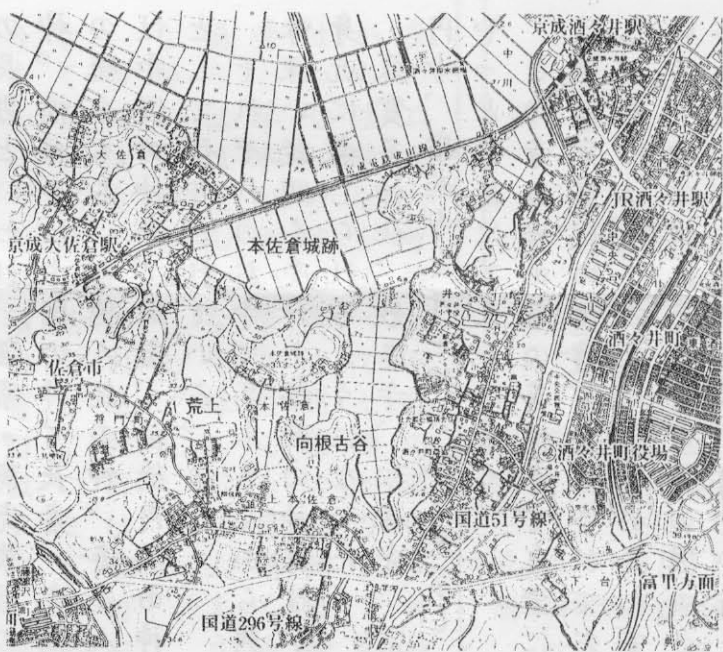
武蔵国分寺方面見学記

養輪春子

六月六日(金)お天気にもめぐまれ、八時集合、二十二分の快速で東京駅乗換え、西国分寺駅下車、三十人のお仲間と、にぎやかにまずは武蔵国分寺跡へ到着しました。全国におかれた国分寺・国分尼寺の一つ、保存館の模型で規模の大きさを想像し、これを全国に建立、仏教によつて国を治めようとした先人の知恵と努力と技術力の高さに改めて感嘆しました。その敷地の一画にある万葉植物園、万葉集によまれた草花を集め、作者名の入った木札と和歌がしるされてる。しばし万葉の世界にひたり改めて万葉集をひもとき味わつてみたい心境になりました。そこ

から続くお鷹の道と呼ばれる遊歩道は、尾張徳川家の御鷹場だったところからつけられた名前とのこと、自治会の方々の管理が行き届きホタルも見られるという、メダカ、アメンボウにも久しぶりにお目にかかり、通りすぎる風に深呼吸を二、三回、真姿の池の絶世の美女伝説に聞き入り想像をたくましくする。お昼は都立国分寺公園、霧の噴水がありキツネの嫁入りではないかと納得する。今日の終わりは殿ヶ谷戸庭園、大正初期の財閥の手になる回遊式和洋折衷の林泉庭園、豊富な湧水と変化にとんだ地形に武蔵野のおもかげを残し、かれんな草花を楽しむ、雑木林の木漏れ日に少しシワものびる気がしました。日常から離れて一日を終わりに酒々井駅四時すぎ到着、快速停車の恩恵に浴して無事一日を終りました。

青葉風因分寺跡草そよぐ
礎石のみ夏草覆う伽藍跡
清流に萍なびき鯉群れる
丸山緑醉(正義)



郷土史講座

水陸交通から見た本佐倉城

を聞いて

古賀寛

平成五年四月に上本佐倉の住人になって十年になります。今回初めて役員からお誘いを受けてこの講演会に参加させて頂きました。
子供の頃からお城は大好きで、転勤族だった現役時代には、勤務地の近くにあるお城を見て歩くのが楽しみでした。織田信長は安土城と京都

の間を思わぬ速さで往来しています。現在の安土城跡は琵琶湖岸から離れた位置にあります。当時は安土山のまわりまで湖水が近づいており、水運を利用しての人や物の移動が行われていました。

本佐倉城の水陸交通という演題は、お話を聞くまでピンとこなかったのですが、中世の本佐倉城周辺の地理的な状況を伺って、なるほどと納得しました。太平洋沿いの海運に連携し印旛浦、手賀浦などの内海や利根川を利用した江戸との水運の要点であったと聞き驚きました。私たちの暮らす現在の酒々井も世界と繋がる成田空港の近くに位置し、町内を空港と首都圏を結ぶ東関東道が走っています。また、水戸と千葉とを結ぶ国道五一号線があり、国道二九六号線も町内を通っています。鉄道もJR、京成があり、まさに交通の要衝です。しかしながら道があるだけでは、人や物が通り過ぎてしまっただけです。重要な道があることが、そこに住む我々にとってただ単に移動に便利というだけでなく、郷土の発展に役立つものであることが必要だと感じました。その方途を考えてみたいと思

います。遠山成一先生の長年の御研究の一端を伺う機会を得て、私にとつて郷土に対する理解を深める有意義な一日でした。このような機会を与えて頂いた郷土研究会の皆様にご礼を申し上げます。

佐倉七福神巡りに参加して

上野和子

残暑ひときわ厳しい九月十日、佐倉七福神巡りに参加した。

八時三十分、京成佐倉駅前に二十二人の元気な顔が揃い、会長・副会長の挨拶の後、大聖院へ向けて出発した。麻賀多神社前、暗闇坂を経て武家屋敷前を過ぎ大聖院へ着く。

ここで高木さんから七福神の由来、七人の神様について丁寧なわかりやすい説明があった。大聖院におられるのは大黒天と布袋尊。大黒天はインドの神様で魔を払う軍神で財宝、武徳、除災招福の神。布袋尊は中国の神様で笑門来福、夫婦円満、子授けの神。毘沙門天はインドの神様で多門天ともいい吉祥天と夫婦、仏教四天王の一人で除災招福の神として信仰。弁財天はインドの古代神話の



中の三大女神の一人で帝釈天と夫婦、知恵財宝、愛嬌縁結びの徳がある。恵比須さまは日本の神様で大国主命の長男といわれ、漁業・商売繁盛の神。福祿寿は中国の神で長寿・幸福の徳をもち、招徳人望の神。寿老人は中国の神様で財宝、福德円満の神として信仰されている。

それぞれのお寺で高木さんから興味深い説明を受け七福神の神様達が身近に感じられるようになった。麻賀多神社、妙隆寺、松林寺、宗円寺、嶺南寺と汗を拭き拭き見学し、やつと最後に甚大寺に着く。

この寺は堀田家の菩提寺で本堂には堀田家累代の位牌が安置されており、奥には代々の立派な墓が並んでいる。寺の隣に元佐倉市長の堀田さんの大きな住居がある。何年か前ま

ではこの辺りが佐倉の中心だったのだらうと思うと時代の大きな流れが感じられる。十一時三十分ごろ歴史生活資料館に着き、休憩・昼食。冷房が十分きいた部屋での三十分、生き返ったような一時を過ごしてから元氣な足取りで京成佐倉へ向かった。

あとがき

吹く風も涼しさが増し、方々の田圃で稲刈りが始まりましたが、今年は冷夏でしたので米の不作、値上りが心配されています。

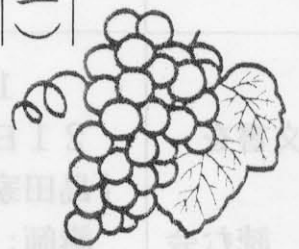
この十月から郷土研行事として「佐倉道を歩く」が始まります。この佐倉道は江戸時代、佐倉藩と幕府の物流のためさかんに利用され、街道すべて带状に佐倉藩の土地だったそうです。

今年のような米の不作の年は年貢米を払う農民はどのような感覚だったでしょう。現代に生まれたことに感謝したいと思えます。

見学

案内

佐倉道を歩く(一)



十月十七日(金)

雨天代替十月二十四日(金)

城下町佐倉と千葉を結ぶ道で、江戸時代、佐倉藩の年貢米が千葉の寒川港へ運ばれ、江戸からの品はこの道をとって佐倉に運ばれた。

今回は、千葉市の中心部広小路交差点からモノレール桜木駅まで約八キロを歩きます。

千葉氏の守護神妙見さまをお祀りする千葉神社に参拝して道中安全祈願の後、広小路から出発、ここは国道五一号の起点で、大型トラックが次々と通り抜け、しっかりと歩道もないので十分注意して歩くことが必要。大六天神社で一休みした後、曲がりくねった坂道を歩きます。

いっただん街道から外れて加曾利貝塚公園で昼食。この加曾利貝塚は、縄文期のもので国指定の史跡になつており、大ききで日本一の貝塚を見学した後、街道にもどりモノレール

桜木駅から帰途につきます。

日帰り見学会

長柄町方面

十一月四日(火)

山あい広がる田圃道、時折小鳥のさえずりが聞こえる静かな道、秋の薄日が色づいた木々の間からこぼれる、そんな一日ゆっくり散策しましょう。

長福寿寺・延暦十七年(七九八)

伝教大師によつて創建された寺で、後村上天皇から極楽東門と名付けられた天台宗の大本山。極楽東門とは極楽の正門のこと。寺の境内の畑は紅花を栽培している。

飯尾寺・飯尾の山根集落背後の急な石段を上った山の中腹にある。俗称飯尾の不動様と言われる。鎌倉時代、幕府に仕えていた土地の豪族、飯尾新左衛門が開基となり、自分の



領地に一字を建立、不動尊を安置したのが始まりといわれている寺。

名勝探訪

目黄不動尊方面

十二月三日(水)

雨天代替十二月九日(火)

江戸五色不動の一つ・目黄不動尊付近をゆっくり見学しましょう。

酒々井駅から平井駅までJRに乗り目黄不動尊へ行きます。境内を散策してから平井の聖天を見学。聖天さまは本名を歡喜天と言ひ、「天」と名のつく御仏がたくさんおられるなか歡喜天がもっとも聖なる天といわれていきます。そのため聖天さまと名付けられ、関東三大聖天の一つとして有名。

亀戸天神は菅原道真を奉っている学業の神様として有名です。

郷土研日誌

月日	内容	人数
6/24	会報編集	3
26	印刷	5
27	発送	17
7/5	史談会	17
15	古文書学習	12
22	街道打合せ	5
31	運営委員会	22
8/8	七福神下見	4
17	郷土史講座	100
27	研修部会	7
29	佐倉道下見	4
9/2	資料作り	2
5	会報編集	5
6	運営委員会	21
10	七福神巡り	22
13	会報編集	3
16	古文書学習	11
17	道標調査	11
20	会報編集	5
20	史談会	14

郷土研行事案内

平成15年10月~12月

<p>史談会</p>	<p>10月 休講</p>	<p>11月 休講</p>	<p>12月 6日(土) 13:30 会議室 「古今佐倉真佐子」⑦ 講師: 高橋健一先生</p>
<p>古文書を 読む会</p>	<p>10月 21日(火) 13:30 「島田家文書」⑥ 公民館 講師: 青木朝次会長</p>	<p>11月 休講</p>	<p>12月 16日(火) 13:30 「島田家文書」⑦ 社協 講師: 青木朝次会長</p>
<p>野草観察会</p>	<p>10月9日(木) 雨天中止(問い合わせ8:30~9:00犬島まで) 集合時間・場所 9:50 JR酒々井駅東口 観察場所: 上岩橋方面(菊賀神社周辺) 参加費: 100円 弁当・飲み物持参 14:00頃現地解散 観察後、上郷自治会館にて昼食、勉強会をします。</p>		
<p>街道を 歩く</p>	<p>10月17日(金) 「佐倉道」① 雨天代替10月24日(金) 集合時間・場所 8:10 JR酒々井駅 JR酒々井駅——東千葉駅——千葉神社——広小路——大六天神社——加曾利貝塚公園(昼食)——モノレール桜木駅——JR都賀駅——JR酒々井駅(16:00頃)約8キロ歩きます 弁当、飲物、敷物持参</p>		
<p>日帰り 見学会</p>	<p>11月4日(火) 「長柄町方面」 定員: 33名 町バス使用 公民館前集合8:45 参加費: 2000円(昼食付き) 行程 申込受付10月10日(金) 9:00~10:00 公民館ロビー キャンセル 実施日3日前までに青木朝次宅へ 公民館——長福寿寺——笠森観音——飯尾寺——公民館 (場合により一部コース変更あり) (16:00頃帰着)</p>		
<p>名勝探訪</p>	<p>12月3日(水) 「目黄不動尊方面」 雨天代替12月9日(火) 集合時間・場所 9:00 JR酒々井駅 行程 JR酒々井駅——平井駅——目黄不動尊——平井聖天 平井駅——亀戸駅——亀戸天神——亀戸駅——JR酒々井 駅(17:00頃着) 弁当、飲物持参 場合によりコース変更あり</p>		